日米「女性・平和・安全保障」ワークショップを開催

U.S., Japan host Women, Peace and Security Workshop

May 2, 2025

By Senior Airman Alexzandra Gracey
374th Airlift Wing Public Affairs

4月22日と23日、横田基地で第3回「女性・平和・安全保障（WPS）」軍事運用のワークショップが開かれ、米軍と自衛隊、ならびに防衛関係者が一堂に会した。

在日米軍兼第5空軍司令官スティーブン・ジョスト中将は、「米国防総省は、WPSを、政策立案から安全保障分野の改革に至るまで、あらゆる意思決定を支え、任務の効率を高めるものと位置づけている」と述べ、「WPSの基本理念は、男女、少年少女を問わず、すべての人々が平和構築や安全保障に関するフォーラムやディスカッションに主体的に参加できるようにすることに重点を置いている」と説明した。

2日間にわたって、ワークショップでは日米によるパネルディスカッションやプレゼンテーションが行われた。経験を積んだWPSのアドバイザーたちがアイデアを交換するとともに、最善の方法を共有し、防衛分野におけるWPSの連携強化に向けた方法について意義のある議論が交わされた。

第5空軍戦略・推進部長ジェイミー・レオンハート少佐は、「今年は、2000年に国連でWPS決議が採択されてから25年の節目にあたる」と語り、「このアジェンダは、女性が平和への取り組みに参加することで、より持続的な平和に資することができることを示している。そのため、同盟国とパートナー国をこのイニシアチブで連携を図ることが重要です。そうすれば、共にWPSを、より効果的で注目されるものとして推進していくことができる」と続けた。

さらに、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、パプアニューギニア、フィリピンの代表者も参加し、地域の安定のみならず、世界的な平和と安全保障の推進に向けた幅広い取り組みの姿勢が示された。

ジョスト中将は、「人道支援の対応から戦闘運用に至るまで、我々の任務は作戦や計画サイクルにWPSを取り入れることで、より強固なものになる。平和と共通の安全保障を確保するためには、階級・年齢・背景を問わず、同じ志を持つすべての人々の力、知恵、貢献が不可欠であることを、心に留めておきましょう」と続けた。

WPS関連の取り組みは、米国防総省および米議会に義務付けられたものであり、あらゆる軍事分野でその理念を実際の運用に適用する助けとなっている。